

令和2年度 学校自己評価表 (計画段階 実施段階)

学校運営計画 (4月)				評価 (3月)	
学校運営方針		歴史と伝統、南高PRIDEを継承し、志を高く掲げ、自己実現を目指す、心身ともに健全な生徒の育成を推進する。また、グローバル化社会に貢献できる、本質を究められる学力を培い、信頼度の高い学校文化を構築する。			A
昨年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標		
<p>昨年度も学校行事とおとした人間力育成において大きな成果があった。また日々の学習指導や進路指導において、教員と生徒との信頼関係がさらに深まり、自らの進路実現に関して、高みを目指して自己実現を図る姿勢が育ち、国公立大学合格者数をはじめとした進路実績が大きく飛躍した。本年度はこの流れをさらに加速させるために、○教師力の向上(生徒との信頼関係を深めた教科指導力、生徒指導力の育成)、○学校教育目標に対する全職員の共通理解に基づいた、部課長による系統的、組織的な校務運営、○教育活動に対する迅速・的確な検証・分析及び改善を3つの柱として、生徒・保護者の期待に応えられる学校、地域に愛される学校、としての学校づくりに取り組んでいく。</p>		教育方針 「鍛え、ほめ、生徒の可能性を伸ばす」	凡事徹底(時を守り、場を清め、礼を正す)の励行		
		「自主」「創造」「親愛」の校訓のもと文武両道の伝統を継承し、学習活動、部活動、特別活動等に意欲的、主体的、協働的に取り組む生徒の育成に努めるとともに、社会の変化に的確に対応した学校改革を積極的に進め、生徒に高い進路希望を持たせ、確実に目標実現させるための教育活動を学校全体として計画的に行う。また、人権尊重の精神を涵養し、いじめ、暴力、差別等は絶対に許さない人間教育を根幹とした教育に取り組む。	人権尊重の精神の涵養(いじめ、暴力、差別等の撲滅)		
		「授業で勝負する」の理念のもと常に日々の授業を分析検証し、改善に向けて努力し、学習意欲の向上を図る。(大学入学共通テスト・国公立大学二次試験に対応する学力の育成)			
		「ネオ・サザンクロスプラン」を軸とした「南高スタンダード」の確立			
		特別活動(生徒会活動、学校行事、ホームルーム活動)、部活動やボランティア活動等とおとした逞しい人間力の育成			
		関係機関(地域、大学等教育機関)との連携によるDAL(Deep Active Learning)の推進			
		部課長制の利点を生かし各分掌や委員会業務の充実を図るとともに、学校全体の課題に対する協働体制づくりの推進			
		本校の教育実践の広報活動に努め、学校全体で本校の教育に共感を抱く保護者、生徒の拡大を図るとともに、挑戦意欲旺盛な生徒の獲得			
		教育公務員としての高い倫理観と服務規律を遵守する姿勢の徹底			
		新学習指導要領、高大接続改革の視点による授業改善、観点別評価研究の充実			
部分掌・学年	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
教務部	学務課	志ある主体的学習態度の育成	特別進学クラスを編成し、顕著な学力の伸長を達成するために、より効果的な教育活動を展開する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生を6クラス編成としたことにより、きめ細かな学習指導を展開することができた。その分、一人の教員が担当する授業時間数が増え、クラス減に伴う教員数の減少もあり負担が大きくなっている。 ・臨時休業による授業の遅れが心配されたが、学校行事の中止や長期休暇の短縮により授業時数については補うことができた。学習の流れが中断され、適切な時期に適切な学習内容を指導できなかったことは大きな課題となったが、授業内容や課題を工夫することで対処することができた。 ・来年度は時程の変更や、単位数増を予定している。観点別評価による学習評価の充実を図り、新学習指導要領への対応を円滑に行えるよう整えていきたい。
		1 自宅学習時間(1日平均)	進路部と連携し、2学年及び3学年において進路希望に応じた類型を設置し、より一層の学習効果を図る。	A	
		1年: 120分	生徒、教員ともにチャイム席を遵守し、授業時間の確保に努める。	A	
		2年: 140分		A	
		3年: 160分	授業を教科指導と生徒指導の最適の場と捉え、緊張感のある授業を展開する。	A	
		2 出席率	学習・生活指導の充実を図るために、ライフレポートの効果的活用を努める。	B	
1年: 99.5%	出席統計と学習時間の統計を毎月提示し、効果的活用を努める。	B			
2年: 99.0%					
3年: 99.0%					
全体: 99.2%					

部分掌・学年		評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		成果と課題					
教務部	企画・広報課	校内の円滑な行事運営 PTA活動の活性化 広報活動の実施 学校(職員室)施設管理	<ul style="list-style-type: none"> ・各部、各課と連携し、校内の円滑な行事、儀式等の運営に努める。 ・PTA活動を推進し、学校と家庭との相互理解を深めるとともに、外部にも本校の魅力を伝えていく。 ・職員室の整備を行い、衛生的な職場環境を維持する。 	入学式・PTA総会・卒業式・合格者説明会において円滑な運営のための企画・立案と各部との調整に努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策のため様々な行事の変更や中止を余儀なくされた。来年度もWithコロナを念頭に運営面での最善策を講じていきたい。 ・学校案内等の広報物は生徒主体の行事が中止となったため、以前の写真を使わざるを得ない部分があった。人を惹きつけるデザインの工夫など限られた素材の中でもよりよいものを作成できるよう考えていく必要がある。 ・PTA総会はできなかったが、できる範囲での総務会、理事会を行い、ご理解をいただいた。感染症対策等、保護者の協力は不可欠であるため、一層連携を強化していきたい。 ・職員室等の衛生的な環境を維持することにより、働きやすい職場環境を整えていく。 					
				2ヶ月分の行事予定表を毎月中旬までに作成配付し、職員室ホワイトボードに行事予定を記入する。	A							
				入学式・PTA総会・体育大会・保護者会・南薫祭・卒業式の保護者案内および来賓への案内状、礼状等を原則1ヶ月前に作成、配布もしくは送付する。	A							
				事務室と連携して指定業者との連絡調整を行い、各部と協力して学校要覧、学校案内パンフレット・チラシ・ポスター、学校ホームページ用案内、新入生のしおりを作成する。	B							
				PTA総会、総務会(年4回程度実施予定)、理事会(総務会後)に関する業務を行う。	B							
				年度末に職員室の机、椅子、書籍ロッカー、更衣室ロッカー、靴箱の調整を行い、鍵を管理する。	A							
職員室全体の環境整備を毎月末には行い、職員にも衛生的な環境維持を促す。	B											
生徒部	指導課	1 基本的生活習慣標 授業出席率99.3%以上 2 PTA合同「挨拶運動」各学期3日間実施 3 部活動目標 ア 加入率87%以上(進路研究会除く) イ 県大会出場運動部15以上 文化部5以上 ウ 九州大会3以上 エ 全国大会2以上(以上延べ)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立 校則・マナーの遵守 ・愛校心、帰属意識を高める 	社会規範・校則遵守の精神の涵養と自己指導能力の育成に努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で多くの行事を実施することができなかったが、南薫祭は例年とは異なる形で実施でき、生徒はよく考えて取り組んだ。 ・数値目標はおおむね達成できたが、部活動の大会はコロナの影響で実施されないものもあり、県大会出場数は減少した。 ・いじめや学校生活に関するアンケートの内容や実施方法を改善し、実効性のあるものとした。日頃から生徒の変化に気づき、きめ細かく対応できるよう、情報共有を心がけていく。 ・来年度からの1・2年生の放課後選択制課外導入に伴い、部活動の活動時間の確保について調整を図る。 ・行事の見直しや生徒会組織再編等を行い、生徒が成長できたと実感できるよう取り組んでいく。 					
				「学校いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめ防止・撲滅」に対する全職員・生徒の意識の高揚を図り、「いじめの早期発見・早期対応」体制の整備・充実に努める。	A							
				生活指導の徹底を図り、校則違反や特別指導の減少に努める。	A							
				挨拶、ボランティア、学校生活等の活動において、生徒会執行部及び部活動所属生徒の果たすべき役割を明確にし、活動の活性化を図る。	A							
				学校行事のより一層の内容の充実に努めるとともに、学校行事を通じて本校に対する帰属意識を育成する。	B							
				部活動成績の掲示により、加入率、活動意欲の向上を図り、部活動の活性化を図る。	B							
				保健安全課	1 保健室利用者の把握と健康管理 2 保健便り定期的発行(年間10回) 3 環境美化活動の推進及び掃除の徹底 4 生徒情報把握・情報の確認、スクールカウンセラー(SC)の活用等生徒支援の推進 5 診断生徒の支援計画作成率100%			<ul style="list-style-type: none"> ・保健室利用者の把握及び関係職員との連携を密にとる。 ・個人の健康のみならず集団の健康について考える意識を持つ。 ・日常の清掃活動を集中して行う。 ・校内施設の安全管理に努める。 ・環境衛生や環境美化の意識を高める。 ・教育相談活動を積極的に推進する。生徒、保護者、担任、スクールカウンセラー(SC)や専門機関との連携を密に取り、生徒支援活動を充実させる。 	保健室利用状況を関係職員で情報共有し、生徒支援に役立てる。必要に応じて、スクールカウンセラー(SC)や専門機関等との連携を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策として、「保健だより」による情報提供が、大変有効であった。感染症対策を徹底することにより、生徒の意識が高まっている。来年度も継続していきたい。 ・美化委員会の指導も含め、美化活動については、例年に比べて活発化がなされた。生徒の消毒液の利用については十分とは言えず、今後も啓発・指導の余地がある。 ・掃除の方法を教職員が指導し、生徒が自ら清掃に取り組めるよう工夫する。 ・スクールカウンセラーと養護教諭、保健課長、関係職員との連携がよく取れていて、悩みを抱えている生徒をケアできる体制が確立できてきた。来年度も教育相談が必要な生徒は増えると考えられるので、継続していきたい。
									保健だよりを毎月1回発行。保健委員会活動を活性化する。	A		
									日々の清掃活動の徹底。掃除監督の徹底。	B		
									美化委員会活動を活性化する。	A		
日々の清掃活動を通して、環境衛生に関して考えさせ、美化意識を向上させる。	A											
生徒支援にかかわる情報を、関係職員で共有する。	A											
特別支援の必要な生徒に関して、保護者、スクールカウンセラー(SC)、専門機関等との連携を推進し生徒支援を充実させる。個別の教育支援計画を作成し、支援の方向性を共通理解する。	A											

部分掌・学年		評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		成果と課題	
進路部	キャリア教育課	一学年（1月進研） 総合3教科 50以上140名以上	・教科指導体制を確立するために、進路実現への実力養成を目的とした教科指導計画の作成とその実践を図る。	GTECや英語検定といった英語資格試験や全国模試を受験することで、これからの入試改革に求められる実力の養成と、進路意識および学習意欲の向上を目指す。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標の達成は十分ではない。生徒の希望進路実現にむけた意識を高め、学力を養う取り組みを強化する。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの行事が中止・変更となった中で、イングリッシュスキルアップセミナーを英語資格試験対策と明確に位置付けることで、生徒の資格取得へのモチベーションを高めることができた。 ・大学訪問や企業訪問と併用し、ウェブ講義などを十分活用できた。保護者向けの進路説明会や教職員向けの研修会についてもオンラインと対面の双方を活用することで効果的に運営することができた。 ・次年度は希望制の朝課外を廃止し、1・2年生の放課後選択制課外を導入し、意欲の向上と学力養成の充実を図る。 ・共通テストについて、各教科で傾向と対策を分析し、教科指導に生かしていく。 	
		二学年（1月進研） 総合3教科 50以上120名以上	・進学体制を確立するために、3学年を通じた進学指導を実践し、四年制大学進学率の80%達成を目指す。	夏季・秋季・冬季休業中に、大学や企業と連携した体験的学習であるウィンタースクールやサマースクールといったキャリア教育・集団学習会を実施し、進路意識のさらなる高揚を目指す。具体的には、大学、企業、地域との連携によるキャリア教育を1学年5回、2学年3回、3学年3回実施することで、自らの進路実現に関して、高みを目指して自己実現を図る姿勢を育成する。	A			
		三学年（進学結果） 国立大学100名以上	・進路意識を確立するために、生徒・保護者・教員の共通認識による、適正な進路希望の確立を図る。	学校教育目標に対する全職員の共通理解に基づいた、部課長による系統的、組織的な進路指導を実施する。保護者対象の進路説明会を実施し、生徒の進路実現に向けての支援体制を整備する。	B			
		総合型選抜・学校推薦型選抜50人程度、一般選抜 共通テスト受験率80%内、二次受験70%			B			
	情報課	1 ホームページ更新	・ホームページを月6回以上の頻度で更新する。	ホームページのコンテンツごとに担当者を配置することで更新頻度を高め、保護者・地域・同窓会・中学生への情報公開を活性化する。	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ・平均23.6回/月で更新することができた。一部更新できていないコンテンツがあったことが課題である。 ・オンライン会議ソフトや電子黒板など4回の研修会を実施できた。全員受講が難しいことが課題である。 ・点検は1回だけ実施した。機器の点検よりもICT環境の改善を目標としたい。 ・貸出冊数3.4冊/人。調べ学習による利用が増加している。利用促進を図る取り組みはできているが効果が一時的である。 ・新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されるが、不登校を始めとする生徒の対応は校内の連携をさらに深めていく。 ・就職、公務員希望者の生徒の進路保障・進路実現に向けて丁寧な情報の提供など個に応じた支援をしていく。 ・奨学金の利用については返還のことも十分に理解させる。特に給付型の奨学金の活用について丁寧に家庭及び生徒への案内に努める。
		2 職員研修	・年間2回以上の情報研修会を実施する。	職員のニーズや県の取組みに合わせた内容の職員情報研修会を企画し、実施する。年間2回以上の実施を目指す。	A			
		3 情報機器の点検	・年間2回は情報機器の点検を実施する。	情報機器の点検を年間2回は実施し、管理を徹底する。また、ICT（情報通信技術）環境のより一層の充実と活発な活用を目指す。	B			
		4 図書館の活性化	・図書貸出冊数を生徒1名あたり5.8冊を目指す。	読書数増加に向けて、「図書館だより」や「新刊案内」の発行や朝読書週間などの取り組みを行い、数値目標の達成に努める。	B			
		支援が必要な生徒の修学保障と進路保障の実現	・校内外での支援の連携を効果的に図る。必要に応じた家庭訪問を実施する。	生徒の修学困難な理由を学年と連携し、早期に把握、分析してその課題解決のための手段を講じる。経済的・個別的な課題を抱えた生徒の支援を行い、確かな修学・進路保障を図る。	B			
	支援課	就学・就労保障のための支援体制の構築	・高同推への進路担当者の参加により生徒に還元できる情報を収集する。	就職、公務員希望者の進路実現達成のための支援を図る。また、高進協、進保協、職安との連携を通じて適正な選考が行われるように就学・就労支援に取り組む。	A	A		
		支援金、奨学金等を利用した生徒の進路支援	・経済的状況を把握するために、事務室と連携して家庭の状況を理解する。	日本学生支援機構をはじめとした奨学金の情報を、効果的に活用できるように取り組む。また、支援金や給付金については事務室と連携して取り組む。	A			
		1 職員研修 職員研修会・新転任者研修・運営委員研修会の計画的実施運営	・校内・外研修体制の充実を図り、職員研修の推進により教育活動の活性化に取り組む	各職員会議の出欠・記録・資料準備など滞りなく行う。 新転任者オリエンテーションの計画・打ち合わせ・実施を行い、新転任者が円滑に業務を進められるようサポートする。	A	A		
2 若年教員研修会・中堅教諭等資質向上研修・エキスパート教員研修の実施と充実	若年教員研修会1年目対象として1名数学教諭が配置されたので、本校の教育活動を通して、充実した研修になるよう、計画・実施する。	年2回計画されている運営委員研修会で、前向きな議論が展開できるよう、管理職・運営委員と協議を重ねる。	A					
3 授業研修 公開授業週間・授業振り返り会・公開授業の実施	・全職員参加の授業研修を実施し、授業改善に努め、教科指導の充実を目指す。	公開授業週間では、最低3時間は他の教員の授業を参観し、自身の授業改善に役立てるよう計画する。 授業振り返り会では、公開授業週間での感想を協議するだけでなく、ICT（情報通信技術）活用を実践している教員の有益な講演なども計画・実施する。	B					
・「紀要南薫」の発行により各研修等の成果を記録し普及する。	遅くとも3月末には研究紀要が発刊できるよう、校内外の研修参加者や、研究活動を行っている教職員のデータを入手し、円滑に編集作業を行えるよう、協力して作業していく。	公開授業では、本校におけるICTを活用した授業や「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）を活かした取組を公開できるように広く参観者を募り、生徒募集につなげる。	B					
研修部				A	A			

部分掌・学年		評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		成果と課題	
学年部	一学年	1 出席率 授業 99.5% 課外 98.0%	・ 基本的生活習慣の確立を図る。	立ち止まり礼をベースにした挨拶の指導を徹底する。また、場に応じた適切な言葉遣いができるように指導する。	A	A	・ 出席率、家庭学習時間について数値目標を達成した。コロナ禍で1学期に初期指導が期待できる行事が行われなかったが、日々の指導を積み重ねることで明るく元気な挨拶や正しい服装、言葉遣いなど基本的生活習慣を確立しつつある。文化祭や授業中のグループ活動を通じて仲間意識も芽生えてきた。一方で、集団生活に基づく協働の精神が真に身につけているとはまだ言えない。同様にリーダーに集団を率いる機会に十分に与えることができていない。次年度の大きな課題である。 ・ 朝の小論テスト、探求活動、ウインタースクールを通して社会についての幅広い知識を得、興味関心を養うことができた。次年度は個々の進路希望に合わせて自ら探究を続けることができるよう促していく。また、文化祭、探究活動、修学旅行などの学校行事と探究活動をリンクさせることでより高い教育効果を期待できる。 ・ 基礎学力の定着は未だ課題である。学習習慣が身につかない生徒への忍耐強く細かな指導が必要である。	
				学年及び学校行事を効果的に活用し、集団生活を通して社会性を養う。	B			
		2 家庭学習時間 1日平均120分	・ 授業規律の確立と基礎学力の定着を図る。	チャイムからチャイムまで授業を実施すること、また、始まりと終わりの挨拶をきちんと行うことで授業規律を確立させる。	A	B		
				習熟度別や少人数の授業を行うことで、個々の能力に応じたわかる授業、積極的に参加できる授業を展開する。	B			
		3 1月進研模試 英国数GTZ B1以上 95人 うちA3以上35人	・ 将来を見据えた進路目標の設定を図る。進路選択のきっかけ作りに取り組む。	リーダーとして活躍できる生徒を増やす。声かけを行い、ポテンシャルを感じる生徒には小さなことでもリーダーを経験させる。	B	A		
				教科の授業や総合的な探求の時間を通じて、社会について幅広く知識を得るとともに、様々な分野に対して興味や関心を持つよう促す。	A			
	・ 人権意識の高揚を図る。			人権同和特設授業を充実させるとともに、教育活動全般を通じて人権意識の高揚につとめる	A	A		
	二学年	・ 出席率 授業出席率 99.0% ・ 家庭学習時間 1日平均140分以上 ・ 1月進研模試 英国数偏差値 50以上の生徒 120人以上	基本的生活習慣の確立	時間厳守、出席率向上に取り組み、基本的生活習慣や規範意識を身につけさせ、凡事を徹底させる。	B	B		
				授業規律の確立と基礎学力の充実	授業、学校行事等で、自ら課題を発見し、克服していく経験を積ませる場面を設定し、課題解決を身につけさせる。			B
			進路目標実現に向けた数値目標の達成		進路目標実現に向けた数値目標の達成	模擬試験に対する取り組みを充実させるとともに、結果を分析し、適切な進路指導を実践する。		B
				将来を見据えた進路目標の設定		進路部と連携し適切な進路情報の提供と進路意識の高揚に努める。		A
			人権意識の高揚		人権意識の高揚	各学期に進路面談を行い適切な進路選択と進路目標の早期実現を図る。		B
学校生活全般を通して、校訓の精神を自覚させるとともに、人権意識の高揚に努める。				B				
三学年	出席率 99.0% 家庭学習時間 1日平均160分以上 進路目標 国立大学 100名以上 総合型選抜・学校推薦型選抜 50名程度 一般選抜 50名以上 共通テスト受験率 80% うち二次受験70% 四大進学率80%以上	進路目標達成に向けた教育活動の実践および自主・創造・親愛の精神と愛校心の育成を目指す。	進路部との連携を強め、進路意識の高揚を図る。また適切な進路情報の提供や個別面談を重視し、生徒一人ひとりの第一希望進路達成のため全力を尽くす。	B	B			
			習熟度別クラス編成と習熟度別授業の実施、放課後学習（含む遅刻・欠席指導）の充実等により、学力の向上を図る。	A				
			課題提出の徹底。家庭学習時間の確保に努め、自ら学習する意欲を高める。	B				
			進路説明会や学年通信を利用し、進路情報を適切に保護者に提供し、学校・生徒・保護者が一体となった進路指導の実践に取り組む。	A	A			
			校外模試の結果を迅速・適切に分析し、生徒の実態把握と目標達成のための具体策を講じる。	B				
			課題を抱えた生徒との関わりや保護者との連携を密にする。	B	B			
			学校生活全般を通して、「自主・創造・親愛」の精神を自覚させるとともに、最上級学年としての矜持をもたせる。	B	B			
・ 今までは、1年次より3年次に向かって学校行事を通して精神面も含め成長していく姿が見られたが、今年は昨年度末よりのコロナ禍で実施できなかった学校行事が多く、最上級生として組織的にリーダーシップを育む機会に恵まれなかった。それゆえ追い込み切れおらず、持っている力を引き出すことができず仕舞いとなり、結果的に進路実現の場面でも最後まで粘りきれぬ生徒を育てることが難しかった。 ・ 進路意識の醸成や学習時間の確保に関して今まで活用してきたいろいろな仕掛けに対し、アプローチが少なかった面があり、成果は限定的と感じられる部分があった。 ・ 6クラス体制にしたことで1クラスの人数が少なくなり、あらゆる点できめ細かい指導の実現につながった。 ・ 面談の回数を増やすなどの工夫で生徒理解・実態把握に努め、進路指導等に生かさなければならなかった。例年以上の一つひとつ詰めていく指導が必要であった。								